

1. 事前放流については、平成17年にガイドラインが示され、国土交通省所管の各ダムで、検討を実施している。
2. 事前放流は利水容量を一時的に洪水調節に使用するものであることから、利水者(共同事業者)の権利を侵すことのないよう留意が必要。
3. そのため、確実に容量の回復が見込めることを踏まえて検討することとなる。
4. また、事前放流の実施にあたっては、利水者に十分な説明、了解を得る必要がある。
5. (事例)日吉ダム事前放流の検討
 - ・下流残流域からの流出が早い場合には事前放流と下流残流域の流出が重なり、下流懸案地点の水位上昇を加速させる恐れがある。
 - ・下流河川の舟運(保津川、嵐山遊船)に支障が生じることが懸念される。

事前放流の検討について（日吉ダム事例）

日吉ダムでは、平成10年の管理開始以降、平成22年までに6回の渇水に見舞われており、新町下地点の確保流量 $6.46\text{m}^3/\text{s}$ （かんがい期）を $4.00\text{m}^3/\text{s}$ （通年）として貯水量を温存する暫定運用を利水者等の協力と合意の下に行っている。

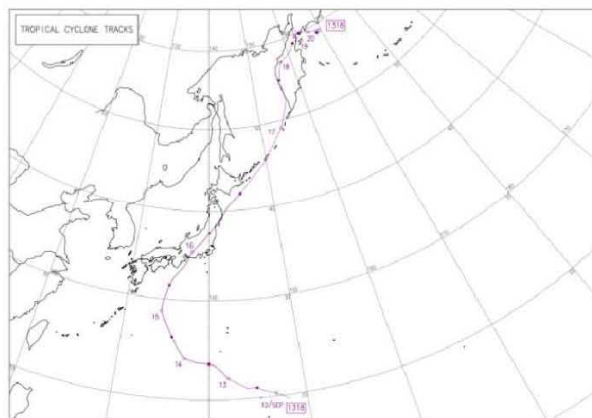
また、日吉ダムの地理的条件と降雨特性から、台風や前線に伴う雨域が南西から移動してくる場合は、ダム下流から先に降雨となり、下流河川の流量が増加している最中に事前放流を実施することとなる。

事前放流には、容量を確保するために半日～1日の期間を要する一方で、降雨予測の精度には予測時点でのばらつきなど誤差がある。

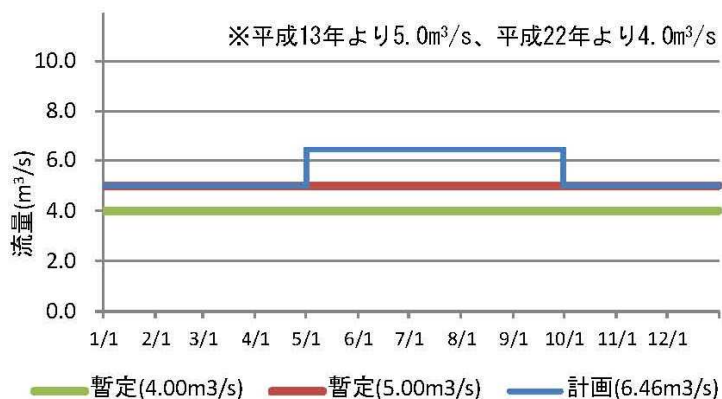
○渇水発生状況

渇水年	月日	渇水状況
平成10年	9/11～9/22	貯水率 32.4%（9/20）
平成12年	8/9～9/13	貯水率 4.4%（9/10）
平成14年	8/16～10/28	貯水率 19.2%（9/6）
平成19年	8/24～1/18	貯水率 16.8%（10/19）
平成20年	8/8～10/2	貯水率 20.0%（9/19）
平成21年	9/9～10/8	貯水率 28.3%（9/30）

○降雨特性



平成25年台風18号の経路



新町下地点補給量の比較

